

【実践報告】

「広島文教女子大学 人間福祉学会 島根ブロック大会」報告

広島文教女子大学 人間福祉学会 事務局

I. はじめに

広島文教女子大学人間福祉学会は、教員・卒業生・在学生が中心となり、卒業後の学びの場、情報交換の場となることを目的として平成14年に創設されました。本学会も12年目を迎え、この間多くの卒業生を福祉実践現場に輩出してきましたが、広島県を除いた近県では、島根県における卒業生の活躍が特筆すべき存在となってきています。

そこで、この度は本大会が、島根県内で活躍中の卒業生に向けた支援活動の一助となることを祈念し、島根ブロック大会を開催いたしました。また、会員以外の皆様にもご参加いただけるプログラムといたしました。

本大会では、第1部に島根県福祉教育推進協議会 副委員長 田原 秀樹氏を迎え、ご講演いただきました。第2部の実践フォーラムでは、島根県で働く卒業生、島根県で就職予定の在学生、本学会員の教員が、現在の島根県で働く卒業生の実際や、今後の島根県の福祉実践現場の見通し等について語り合いました。第3部には情報交換会を行い、第4部では今回の総括と今後の島根ブロック大会の運営について意見を出し合いました。第1部・第2部を中心にその概要についてご報告いたします。

II. 日時・場所

(日時)

平成26年11月8日(土)～9日(日)

(場所)

第1部・第2部 出雲市民会館

(出雲市塩冶有原2丁目15番地)

第3部・第4部 ホテル武志山荘

(出雲市今市町2041番地)

III. 内容概要

1. 基調講演

テーマ「島根の明日は、わたし達の手で」
～ストレングスの視点で考える～

講師 田原 秀樹
島根県福祉教育推進協議会 副委員長
社会福祉法人可部大文字会
老人福祉施設 山まゆ統括室長



「島根県の明日は、わたし達の手で」と題し、島根県内の地域福祉活動等の取り組みについて実例を交えてお話していただきました。講演では、1「目に見えないもの」をどのようにして「可視化」するか 2福祉教育の具体的な取り組みについて 3島根の明日は、わたし達の手での三部構成でご講演いただきました。

田原氏は、銀行勤務を経験後、高校教員(教頭・副校長)を経て、福祉の世界へ入られた経歴をお持ちで、ドイツをはじめヨーロッパ、アジアの福祉や教育も視察されました。それらをふまえ、高齢化率日本一であった島根県の、高校教育に福祉人材育成のための福祉科設置を提案し、設立されました。福祉を学校教育に取り入れることで、地域の人材育成につながっていくことを目指し活動されてきました。また、いつまでも安心して暮らすことのできるまちづくりを目指す取り組みの事例を紹介していただき、高齢者の見守りを連携して行うなど、より住民に寄り添った形の支援を目指す活動等具体的な取り組みを紹介していただきました。

また、講演の中で、社会的包摂や、目に見えない事柄に「気づき」どう可視化していくかが重要とし、「目に見えないところに大事なことがある。見えるものを追いかけてしまいがちだが、教育や福祉では、マイノリティーの声なき声を受け止めることが大切」とお話された。

2. 実践フォーラム

「地域実践の現状と学び」



卒業生を中心とし、島根県で働くことの現状や課題について、それぞれの仕事内容を交え発表し合い、情報交換を行いました。働く上で、悩みや課題を話し合い、実際の実践につなげるにはどのような方法があるのか、在校生・教員とともに考えることができました。

島根県の中でも東部・西部で福祉への取り組み方の違いや、福祉サービスにも地域差があることが分かりました。その中でも福祉従事者のつながりが地域により豊かなところや、勉強会が充実している地域等がありました。また、福祉のまちづくりに、文教生が地域に貢献し、大きな役割を担っていることもわかり、卒業生が文教で学んだことを活かし、活躍している話も聞くことができました。また、仕事のつながりでは、顔を合わせているが、同窓生であることをこの会に出席し、初めて知る卒業生もおり、さらにネットワークが広がりました。卒業生の話によると、お互いが文教の卒業生であると知ると、とても安心し、心強く感じているという話もありました。

島根県に来年度就職が決まっている在學生も2名参加しましたが、「卒業後働くための心構えや心強いアドバイスをもらうことができました。」と話しており、スムーズな就労へ繋げる一助となったようです。

IV. 総括

今回島根ブロック大会を初めて開催し、県外での学会を開催するにあたり、改善すべきところや課題も多くありましたが、1期生から在學生までの交流を図り、さらに卒業生が多く活躍している島根の地域福祉について語ることができ、大変実りある大会となりました。

今後の開催に向けての、改善点等以下のような意見が挙がりました。

- ・分野が違っても専門職の繋がりをつくることは重要

である。文教卒業生の繋がりをきっかけに、地域ネットワークが広がっていくとよい。

- ・卒業生だけでなく、在學生、高校生も参加できるように、開催時期を帰省時期に合わせてはどうか。
- ・島根県文教卒業生福祉人材マップを作ってはどうか。
- ・より多くの卒業生が参加できるように定期的に島根ブロック大会を開催し、連携を強めたい。

以上のような意見をふまえ、今後も人間福祉学会では、在學生・卒業生の情報交換会の場を作っていきたいと思います。

